令和6年度　かほく市立外日角小学校　学校評価計画

重点目標	取組内容		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
1 確かな学力の育成	①	学習規律，基礎基本の定着・習熟を図る	学習指導部	教師や他の児童の話を最後まで聞こうとする姿勢の弱い児童が見られる。	【努力指標】 話す人の方を見て最後まで話を聞いている。	Ａ：よくあてはまる Ｂ：おおむねあてはまる Ｃ：どちらかといえばあてはまらない Ｄ：あてはまらない	A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% （教） 96.1% （児）	A	児童・教職員共にＡ評価が高い。	「話す・聴くステップアップ表」を全校で活用することで、児童と教職員が共通認識して具体的目標に向かい取り組むことができている。今後もその表を活用しながら、児童、教職員が目標を共通認識して、具体的な取組を決めて進め、児童ができるようになったことを実感できるようにしていく。	・学校でも「話す・聴く」を大切にしているということだが、ぜひ「傾聴する」ことを大切にしてほしい。相手が言わんとしていることを全部聞くことで、こちらの話も聞いてもらえるからである。それは、子供も大人も同じだと思うので、実践してほしい。 ・読書については、いつも話題に上がるので、今回は評価が良くてよかった。借りても読まない子がいれば、「あなたの借りた本、どんな本だったの」と聞いてみたり、読書ポストを設置して誰かにお勧めの本を紹介したりという取組もよいのではないか。 ・せっかく保護者や地域の人中心の「スマイリーブック」（読み聞かせグループ）が精力的に活動しているので、低学年だけでなく高学年にも読み聞かせしてほしい。
	②	授業力・指導力の向上★	学習指導部	子供主体，そして，本校の重点「子供が選択し，自己決定する場の設定」をめざした授業への取組がスタートしたばかりで，模索しながら進んでいる。	【成果指標】 授業の中で自己決定する場を設けている。	一日の授業で， Ａ：週３回以上できている Ｂ：週２回以上できている Ｃ：週1回以上できている Ｄ：ほとんどできていない	A＋Bが80%未満の場合，学年研やブロック研で取組を検討する。	96.0% （教）	A	教職員の肯定的評価は高い。	自己決定の場は、「ねらいを達成するための自己決定」にしていくことが望ましい。教職員全体で話し合う機会を設け、共通理解しながら進めている。今後も、ブロック研・全体研を通して、「子供主体の授業」の実現に向けて、実践を積み重ねていく。	
	③	学習場面に応じた１人１台端末の有効的な活用に努める	学習指導部	授業のねらいを達成するための，ICT端末・機器の積極的な活用はできてきたので，効果的な活用を推し進めていく。	【努力指標】 クロムブックを使った効果的な活用を行っている。	Ａ：よくあてはまる Ｂ：おおむねあてはまる Ｃ：どちらかといえばあてはまらない Ｄ：あてはまらない	A＋Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	88.0% （教） 97.5% （児）	A	教師・児童共に肯定的評価が高い。	今後も、授業のねらいを達成するためにICT端末、機器の効果的な活用を積み重ねていく。	
	④	学校で読書する習慣を身に付ける	学習指導部	低学年は，図書館に楽しんで通う姿が見られるが，高学年になると進んで読書をする児童が少なくなる傾向がある。	【成果指標】 週に１回図書館を利用する児童が80%以上である。	Ａ：８０％以上の児童があてはまる Ｂ：７０％以上の児童があてはまる Ｃ：６０％以上の児童があてはまる Ｄ：５０％以上の児童があてはまる	A＋Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	84.0% （教） 81.2% （児）	A	図書館を利用する肯定的評価は80%を超えている。	Ｒ６より、朝ステップの読書が週に２回から１回に減ったため、教師は、意識して、読書時間を確保し、読書の習慣化を図る。	
2 豊かな心の育成	①	気持ちのよい挨拶，時と場に応じた言葉遣いができる	生徒指導部	玄関での朝のあいさつは少しずつ元気になっているが，安全ボランティアや来校者へのあいさつを進んでできる児童が少ない。	【努力指標】 自分から進んでいいあいさつをしている。	「自分から進んでいいあいさつをしていますか」に対して，ＡもしくはＢと答えた児童・保護者が Ａ：９０％以上いる Ｂ：８０％以上いる Ｃ：７０％以上いる Ｄ：７０％未満いる	A＋Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	90.7% （児） 81.9% （保）	B	前年度前期より児童のＡ評価が８％上がっている。	今年度、あいさつモデルの周知および特別活動部との連携により、児童のあいさつに対する意識が高まっている。今後も継続し、習慣化を図る。	・「発達支持的生徒指導」という言葉は難しいが、教室には、いろいろな理由で困り感を持っている児童がたくさんいると思われる。先生方には、一人一人もれなく声をかけ認めることを心掛けてほしい。 ・人はどうやったらやる気になるかというと、できた時に「周りが褒める（認める）」「声をかける」「ハイタッチなどして触れる」ことで自信を深めるという話を聞いた。これは、自己肯定感の向上にもつながる。 ・先日登校時に、1年生が道で転んでしまった。通る子たちが皆立ち止まったり、「大丈夫？」と声をかけたりしていた。とても微笑ましかった。
	②	発達支持的生徒指導を推進し，自己肯定感，自己有用感を高める★	生徒指導部	自己肯定感が低く，自分にはよいところがあると感じていない児童が多い。	【満足度指標】 児童が自分にはよいところがあると感じている。	「自分にはよいところがあると思いますか」に対して，ＡもしくはＢと答えた児童が Ａ：９０％以上いる Ｂ：８５％以上いる Ｃ：７０％以上いる Ｄ：７０％未満いる	A＋Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	86.2% （児）	B	児童の肯定的評価は、昨年度前期より6%程度上がっている。	いいねカードの積極的利用が効果的であった。さらなる向上を目指し、教師がクラスの児童一人一人に対し漏れなく声かけを行う意識を高める。また、自己肯定感が低い児童については、当たり前の行いができたことを褒めることで、自己肯定感を高めていく。	
	③	児童にとって「安心」「安全」な居場所づくり★	生徒指導部	学校が楽しくない（C,D）と感じている児童が約14.2%いる。	【満足度指標】 児童が学校が楽しいと感じている。	「学校は楽しいですか（楽しいと言っている）」に対して，ＡもしくはＢと答えた児童・保護者が Ａ：９０％以上いる Ｂ：８５％以上いる Ｃ：７０％以上いる Ｄ：７０％未満いる	Ｂ以下の場合，取組の検討・改善をする。	91.3% （児） 91.2% （保）	A	児童のＡ評価は、昨年度前期より７％以上上がっている。	今年度より生徒指導加配が配置されたことで、問題行動発生時における組織的な対応ができている。相談室やさくらルーム等、教室に入ることが難しい児童の居場所が確保できていることも「安心」「安全」な居場所づくりにつながっている。今後も継続していく。	

重点目標	具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
2 豊かな心の育成	④	「考え，議論する道徳」を意識した授業改善の工夫	学習指導部	学校行事や体験活動等との関連を図ったり，道徳の教科書をもとに，いしかわ版道徳教材やＧＴを活用したりして，個々の児童が，思いやりの心を持ったり，夢や目標を持ったりするように，共通実践を蓄積する必要がある。また，規範意識の向上も必要である。	【成果指標】 道徳授業の工夫をする。 ア　導入の工夫 イ　道徳の教科書， 　いしかわ道徳教材やＧＴの活用 ウ　中心発問の吟味 エ　道徳掲示の蓄積 オ　体験活動との連動	道徳の授業で Ａ：３項目以上に取り組んだ Ｂ：２項目以上に取り組んだ Ｃ：１項目以上に取り組んだ Ｄ：取り組めなかった	A＋Bが70%未満の場合，授業のあり方について検討・改善をする。	100% (教)	A	教職員の肯定的評価は100%である。	Ｒ６年度より教科書が変わったので、「オ　体験活動との連動」については、スクールコーディネーターと共にゲストティーチャーの新規開拓を進めていく。	・「いじめはいけない」というアンケート結果が良くなったことは喜ばしい。各種アンケート結果をクロス集計し分析をしてもよいのではないか。また、いじめに対する取組の保護者・地域への周知にもっと取り組んでほしい。 ・SSR（さくらルーム）の活用が進んでいる。個人的な居場所や社会的な居場所として大事な部屋である。ただ、次年度担当が変わり、運用の仕方が変わると対象児童が困惑するのではないか。良いところは踏襲しながら、利用児童の状況に合わせてよりよい活用となるよう工夫してほしい。 ・SSR（さくらルーム）の利用について、利用していない児童への知らせ方は配慮したらよい。 ・学童で児童と触れ合う機会があったが、ドッジボールを呼び掛けても「負けたら嫌」とか「自分の思い通りにならないから」という理由で参加しない子が多かった。体を動かすことにも、気持ちの成長が必要なのだと感じた。 ・地域の行事に喜んで参加し、ふるさとを大事にする子を育てたい。地域としてどう子供達を育てていくか考えていくことが必要である。ほったらかしではダメだし、いけないことはきちんと叱ることも必要である。そして、夢を語れる子になってほしい。
	⑤	いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応★	生徒指導部	「いじめは絶対にいけない」と思っていない児童が一定数いる。	【成果指標】 児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」と感じている。	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して，Aと答えた児童が Ａ：９５％以上いる Ｂ：９０％以上いる Ｃ：８５％以上いる Ｄ：８５％未満いる	B以下の場合，取組の検討・改善をする。	99.2% (児)	A	児童のＡ評価が７％程度上がっている。	今年度より月一回実施のともだちアンケートの質問項目に同内容を加えたことで、児童が定期的にいじめについて考える良い機会となっている。しかしながらB～D評価の児童が未だ4.8%いるため、個別に面談を行うなどしてA評価100%を目指していく。	
	⑥	児童が主体的に活動できる場を設定すると共に，集団の中で協力する心や他を思いやる心を育てる	特別活動部	なかよしグループ活動には，楽しく参加しているが，協力し合ったり，助け合ったりする関係が十分にできているとは言えない。	【努力指標】 なかよしグループ活動に自分から進んで活動に参加し，楽しむことができる。	Ａ：よくあてはまる Ｂ：おおむねあてはまる Ｃ：どちらかといえばあてはまらない Ｄ：あてはまらない	A＋Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	96.9% (児) 100% (教)	A	児童・教職員共に肯定的評価が90%を超えている。	肯定的評価を更に高めるために、定期的に行うなかよし遊びに加え、なかよし掃除やオータムフェスティバルなどの機会にも異学年との協力、助け合いを念頭に置き、継続的に認め価値づける声かけを全教員で行うようにする。	
	⑦	特別支援教育校内委員会の機能化★	生徒指導部	個別に支援を必要としている児童割合が高い。	【努力指標】 児童理解の会や学年会，終礼等で，児童の実態把握や問題の早期対応に努めている。また，必要に応じて外部機関とも連携している。	Ａ：よくあてはまる Ｂ：おおむねあてはまる Ｃ：どちらかといえばあてはまらない Ｄ：あてはまらない	A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% (教)	A	教職員の肯定的評価は100%である。	今年度よりいじめ問題対策チーム会と同日に開催することで、いじめとの相関関係も考慮しながら特別支援教育の観点で対応策を考えることができた。また、支援が必要な児童の保護者や、外部機関にも積極的に協力を仰ぐことができている。	
3 健康・安全教育の推進	①	「体力アップ１校１プラン」をもとに，全校で体力アップを図る「スポチャレいしかわ」の積極的な参加	特別活動部	休憩時間に体を動かしている児童は多いが，運動能力調査の結果に反映されるまでには至っていない。また，運動を好まない児童もいる。	【成果指標】 マラソンやなわとびチャレンジカード等に意欲的に取り組み，体力・運動能力の向上が見られる。	「進んで体を動かしていますか」に対して，AもしくはBと答えた児童が Ａ：９０％以上いる Ｂ：７０％以上いる Ｃ：５０％以上いる Ｄ：５０％未満いる	A＋Bが70%未満の場合，取組の検討・改善をする。	89.0% (児) 92.0% (教)	B	教職員の肯定的評価は高いが、児童の肯定的評価は３％程度昨年度より下がっている。	児童が進んで体を動かすために、なわとびチャレンジカードやマラソンチャレンジカードを活用する。	
	②	避難訓練実施を含め，危険予測能力，事故回避能力などを育成する	保健安全指導部	校内の廊下や登下校時の歩き方，災害発生時の避難の仕方についても不安が見られる。	【成果指標】 安全に廊下や道路を歩くことができる。また，非常時において避難の仕方を覚え，真剣に訓練に取り組むことができる。	「廊下や道路を安全に歩いていますか」に対して，AもしくはBと答えた児童・「子どもは道路を安全に歩いているか」に対してAもしくはBと答えた保護者が Ａ：９０％以上いる Ｂ：８０％以上いる Ｃ：７０％以上いる Ｄ：７０％未満いる	児童保護者評価ともにA＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	96.5% (児) 98.2% (保)	A	児童・保護者共に肯定的評価が９０％を超えている。	生徒指導部による放送での指導や保健委員会の取組などにより安全歩行を働きかけてきた。下校時に交差点に教員が立つこともある。A評価ではあるが、これからも継続して指導が必要である。	
4 信頼される学校づくり	①	学校ＣＮと連携し，教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を進めることで，効果的に学習を行う	教務部	学校ＣＮと連携し外部人材の活用し効果的に学習を行ことを継続していく。	【努力指標】 学校ＣＮと連携し，教科や活動のねらいに沿った外部人材の活用を進める。	Ａ：よくできた Ｂ：おおむねできた Ｃ：どちらかといえばできない Ｄ：できない	A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	96.0% (教)	A	肯定的評価は90%以上と高い。	年度当初に各学年の担任と学校CNで昨年度の実績を踏まえながら計画的に実行してきたことで、効果的な学習となっている。児童のニーズに合った活動になるよう、今後も連携を密にし、学習を進めていく。	
	②	各種便りやホームページ等での情報発信の充実	情報担当	様子や取組を更新している学年と更新していない学年の差が大きい。	【成果指標】 定期的にホームページを更新する。	Ａ：毎週更新している Ｂ：隔週で更新している Ｃ：月1回で更新している Ｄ：一月以上更新していない	Ｃ以下の場合，取組の検討・改善をする。	88.0% (教)	B	肯定的評価は80%である。	肯定的評価が上がっていることから、引き続き学年会で更新頻度を必ず振り返る。行事等の機会を中心に週1回以上を目指して更新し、各学年、学級の様子をより高い頻度で伝えられるようにする。	

重点目標	具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	肯定的結果	達成度	結果の考察	今後の方針	学校関係者評価
4 信頼される学校づくり	③	保護者への「報・連・相」	管理職	学校生活で気になることや児童同士でのトラブルなどを保護者へ丁寧に連絡している。 気になることは必ず保護者へ連絡することを継続する。	【努力指標】 児童の気になることに対して保護者への電話，面談，訪問など速やかな対応を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A＋Bが90%未満の場合，取組の検討・改善をする。	97.0% （教）	A	肯定的評価は90%以上と高い。	児童の気になることに対して，保護者への対応は速やかに行っている場合がほとんどである。今後も生徒指導のさしすせそ（最悪を想定して、慎重に、素早く、誠実に、組織的に）に留意しながら組織的に対応していく。	・「ノー残業デー」を掲げる企業も増えたと聞く。学校では、なかなか難しい面があると思うが、それでも意識してやっていくことが大切だと思う。頑張っていただきたい。 ・学校行事の精選は大変だと思うが、人材活用も含め今後も取り組むべき課題である。
5 教職員の人材育成	①	学校運営の参画意識を高める	管理職	昨年度までは，一人に業務が集中することもあったが，今年度より，業務を細分化し，できるだけ一人一役となるよう担当を割り振り自覚をもって公務を遂行を心がけられるようにする。	【努力指標】 自分の担当に見通しをもち，提案・運営を積極的に行う。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A＋Bが90%未満の場合，取組の検討・改善をする。	100% （教）	A	教職員の肯定的評価は100%である。	一人一役にして業務の偏りを見直したことで、自分の仕事に集中して取り組んでいる様子が伺える。 また、主任主事を中心に、分掌内で協力して取り組む姿が増え、参画意識の高まりも感じられる。	
	②	研修の充実 若手主体で取り組む若プロ	教務部	教員としての力量を高めたい気持ちはあるが，若プロ研修の設定の場が少ない。	【努力指標】 主体的に研修会に参加し，月に１度は相互授業参観を行い意見交流をする。	A：よくできた B：おおむねできた C：どちらかといえばできない D：できない	A＋Bが80%未満の場合，取組の検討・改善をする。	91.0% （教）	A	肯定的評価は90%以上と高い。	学習指導部からの提案で、授業構想シートを活用し、相互参観の機会を設けている。参観後は、学年会シート等に感想を記し、授業改善に努めている。若プロ職員の願いに沿うようにペア研も設定できた。今後は、研修の企画運営も担っていけるように段取りを組んでいきたい。	
6 教職員の多忙化改善	①	教職員が担うべき業務に専念できる環境を確保 教材研究や学年会の時間を確保	管理職	超過勤務はやむをえないという意識から，ワークライフバランスや適正な勤務時間のさらなる意識向上が必要である。	【努力指標】 週３回以上１９時３０分までに退校している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	A＋Bが90%未満の場合，取組の検討・改善をする。	89.0% （教）	B	肯定的評価は、昨年度前期に比べて９％程度上がっている。	前期は，退校時刻を意識した職員が多かった。まだ個人差はあるが，今後も学校行事や教育活動における精選と見直しや学校CN・教育業務支援員の活用により，勤務時間の削減を目指していく。	